

淋種豚場の種豚 自衛隊ヘリコプターで救出

国産純粋種豚改良協議会会員で、7月4日の豪雨で一部豚と豚舎が流される被害に遭われた淋さん。9日に御本人からお電話頂き御家族共に無事でいらっしゃる事が分かり、ひとまず安心いたしました。しかし、淋さんがその技術と年月を積み重ねて生み出した種豚や、その種豚から生産された個体60頭近くが流されたり土砂に埋まってしまうました。淋さんは豪雨被害後、近隣の道路の多くが通行止めになっているにもかかわらず、2時間近くかけて生き残った豚の餌を取りに行ったりされていましたが、このままではきちんと飼養できないと考え、熊本県養豚協会・熊本県などに相談。その結果、自衛隊が協力してくれることになり、今回ヘリコプターによる種豚等の救出が行われました。

種豚は、今日明日というスパンで完成するものではありません。時間をかけ、血統、検定、餌を含む飼養管理と種豚生産者の技術により、やっと完成となった大切な『遺伝資源』です。また淋さんは現在、我が国において豚熱ワクチン非接種地域の国産純粋種豚生産者でもあり、種豚配布だけでなく、精液供給も積極的に行っておられました。我が国において非常に重要な存在の国産純粋種豚生産者が被害に遭ってしまい、大切な『遺伝資源』が一部失われてしまったことは、我が国の養豚産業にとって大きな損害であります。

私達は今こそ、国産純粋種豚が遺伝資源であり、代替えの利かない非常に重要なものであることの再認識と、災害・疾病時だけでなく国際問題などによる海外からの導入が困難になることも想定し、国産純粋種豚の維持管理と生産体制について具体的な方策を検討し実行に移す時だと思えます。

そのためにも国産純粋種豚改良協議会のネットワークを拡大し、テーブルミートを生産する肉豚生産者が常に安定生産に取り組むことができ、国民に良質なたんぱく源を提供できるよう頑張りたいと思います。

孤立の種豚ヘリで救出 熊本・球磨村

2020年07月17日

地域

いいね! 340 ツイート LINEで送る B1 1

自衛隊や熊本県は16日、同県球磨村の淋(そそぎ)種豚場に豪雨後も取り残されていた豚27頭を、ヘリコプターを使って助け出した。救出には6時間かかったが、全頭が無事だった。自衛隊によるとヘリコプターによる豚の救助は初めてという。

“作戦”には陸上自衛隊第8飛行隊の他、県や球磨村の畜産担当者ら約30人が参加。まず、鎮静剤を打って豚を落ち着かせた。その後、穀物などを運ぶフレコンバッグに1頭ずつ入れ、ヘリコプターでつり上げ、移動させた。豚の平均体重は約100キログラムあるため、慎重に作業した。

例のない救助活動に県畜産課の担当者は「貴重な種豚を救えて良かった。自衛隊に感謝したい」と話した。助かった豚は種豚場の別の豚舎で一時的に過ごす、熊本県養豚協会が引き取り先を探している。

淋種豚場は国内有数の種豚農場。4日の豪雨で豚舎と豚の一部が流された。国道219号と種豚場を結ぶ約200メートルの道路は損壊した。車は通れず、孤立状態になっていた。県は豚を守ろうと自衛隊に協力を要請。最初は道路の復旧を探ったものの難しいことが分かり、ヘリコプターを使った。



自衛隊や熊本県による豚の救助活動(16日、熊本県球磨村で=県提供)